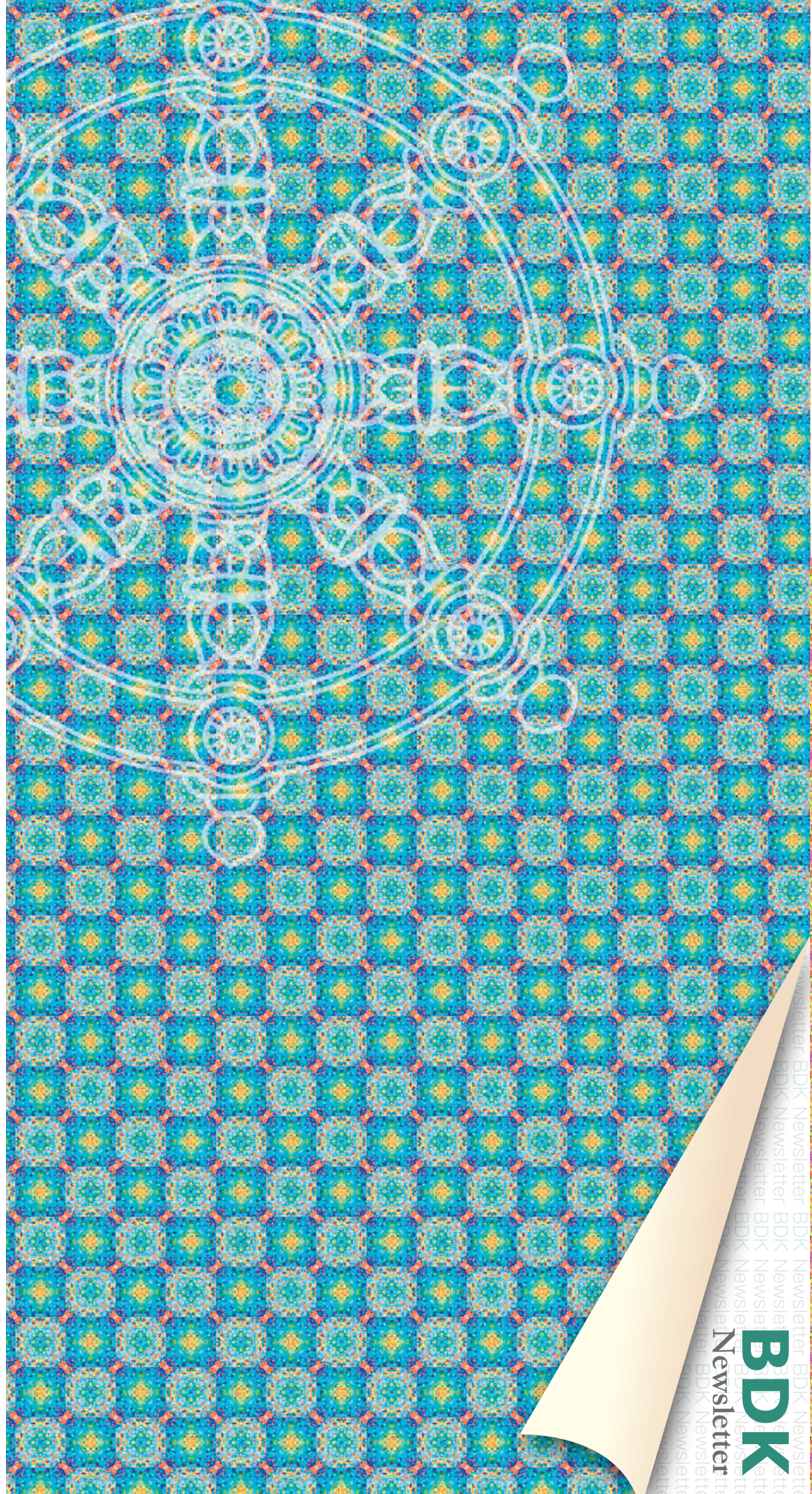


道

みち

公益財団法人 仏教伝道協会

No. 14
2025





公益財団法人 仏教伝道協会
会長 木村 清孝

14

CONTENTS

道みち

02 公益財団法人 仏教伝道協会 令和6 (2024) 年度の主な活動

1. 出版事業

- シリーズインタビュー「仏教聖典」を訪ねて
*「仏教聖典ボランティア」～地域と共に歩む「仏教聖典」
森本公穰師 (華嚴宗大本山東大寺)
- 令和6 (2024) 年度 「仏教聖典」頒布状況
*「仏教聖典ソナカ語改訂版」寄贈式典 (ブータン王国)
- 令和6 (2024) 年度 当協会その他出版物のご紹介
*「英訳大蔵經」出版状況
- 「輝け! お寺の掲示板大賞2024」開催
- 第11回「一日一訓カレンダーフォトコンテスト」開催
*写真展「第10回一日一訓カレンダーフォトコンテスト」開催

11

2. 助成・表彰事業

- 奨学金事業報告
*「日本人留学生奨学金」制度
*「外国人留学生奨学金」制度
- 第58回「仏教伝道文化賞」贈呈式 開催
- 令和6 (2024) 年度「助成金事業」報告

17

3. 啓蒙活動・支援事業・仏教講座の開催

- オンライン法話会「週刊法話ステーション」
- FM大阪「サタデー★ナイト仏教」好評放送中
- 「仏教伝道協会2024花まつり」開催
- 「仏教聖典を経営に活かす会・生活に活かす会」年間開催報告
- 第52回実践布教研究会 開催(日蓮宗総本山身延山久遠寺)
- 書道パフォーマンスおよび人形劇
- ワークショップ「チベット医学と仏教」開催
- 「仏教を英語で学ぶ会 2024」年間開催報告
Part1- Part 3(全9回)
特別編「英語で読む般若心経」(全4回)
- 「仏教ヨガ講座」年間開催報告
特別坐禅会開催
- 連続講座「ブッダの隣人」(全4回) 開催
- 「願いの一字コンテスト2024」書道パフォーマンス
- 「体感する仏教(上野・谷中編)」開催
- 仏教初心者講座「一から学ぶ日本の仏教」年間開催報告
特別編「すくいなのか さとりなのか」開催
- 「こころを豊かにする精進料理教室2024
～食を通じて仏教を学ぶ」年間開催報告
- 令和6 (2024) 年度「BDKシンポジウム」開催
*第35回「ブッダはどこにいるのか?」
*第36回「運が良くなる仏教の教えく仕事編」
*第37回「人生のみちるべ」

34

ちょっとひと休み 設立60周年記念出版物「禅僧は語る」ご紹介

35

海外協力機関のご紹介

- 米国仏教伝道協会 ● ハワイ仏教伝道協会 ● メキシコ仏教伝道協会
- 南米仏教伝道協会 ● 台湾仏教伝道協会 ● アジア仏教伝道協会
- ヨーロッパ仏教伝道協会

44

“ささえあって” 「笑顔(えがお)」



公益財団法人 仏教伝道協会
BUKKYO DENDO KYOKAI

BDKニュースレター No.14 2025-2,700

令和7 (2025) 年6月1日発行 (毎年1回発行)

発行 公益財団法人 仏教伝道協会
〒108-0014 東京都港区芝4-3-14
電話: 03-3455-5851(代)
FAX: 03-3798-2758

編集 江口 郁 (公益財団法人 仏教伝道協会)
印刷 株式会社アーク/デザイン 田所淳一

もっとつながる もっとつなげる

平素より仏教伝道協会の事業にご理解ご協力を賜り、まことにありがとうございます。

令和6（2024）年は、当協会の事業の主軸として取り組んでおります「仏教聖典」の印刷数が累計1,000万冊を超えました。また、6年の歳月をかけて読みやすさと現代性を兼ね具えた改訂版『和文仏教聖典』を発刊することができました。関係各位に対し、改めて心より感謝申し上げます。

さて、令和7（2025）年は当協会設立60周年の節目の年です。いま世界は、多発する自然災害や繰り上げられる戦火の下、社会の分断や孤立が各地に生じて、深刻な不条理と不安をもたらしています。

60周年を迎えるにあたり、私たちは発願者・沼田恵範師の願いにもとづき、仏教の叡智をより多くの方がたに伝えるために、何をなすべきなのか、何を求められているのかを全役職員で再考し、中期的視点をもつて「もっとつながる もっとつなげる」という活動目標を掲げました。

今を生きる人びとへ向けて、強く正しく生きるための教えの力を世界中に浸透させるべく、さまざまな団体とも協働し、そのつながりから得られる強い力と広い視野をもって邁進して参ります。よろしくお願い申し上げます。

合 掌

「仏教聖典」を訪ねて

「仏教聖典ボランティア」

～地域と共に歩む「仏教聖典」



◎ご協力：森本公穰師（華嚴宗大本山東大寺大仏殿院主 華嚴宗財務部長 東大寺財務執事） ◎取材時期：2025年2月 ◎場所：華嚴宗大本山東大寺（奈良県奈良市） 聞き手：増田将之（公益財団法人仏教伝道協会） 編集・撮影：江口郁（公益財団法人仏教伝道協会）



東大寺：鏡池越しの大仏殿

仏教伝道協会では、主軸事業のひとつである「仏教聖典」の頒布活動を継続的に行ってまいりました。近年はホテル・旅館などの宿泊施設に加えて、寺院、医療施設、教育機関でも使用されるなど、様々な活用がなされています。「仏教聖典」を通じて少しでも仏教の考え方を知っていただくべく、当協会ではそれぞれの地域で「仏教聖典ボランティア」として活動してくださる方を募集し支援しており、令和7（2025）年現在、100名の僧侶の皆さまにご協力いただいています。

「仏教聖典ボランティア」とは、「仏教聖典」を各地の宿泊施設や観光拠点となる施設に設置していただけるよう、そしてその良さを当協会に代わってPRし、仏教思想や文化をひろめてくださる僧侶の皆さまです。今回は「仏教聖典ボランティア」として、一人でも多くの皆さまへ「仏教聖典」を届ける活動をお手伝いいただいている森本公穰師に、修二会への準備が進む華嚴宗大本山東大寺にてお話を伺いました。

「奈良の大仏さま」として絶大な知名度を誇る盧舎那仏は、世界中の人びとを魅了しつづけ、華嚴宗大本山東大寺のお膝元でもある奈良市は、代々継承されている旅館や商店などが建ち並び、訪れる人びとを温かく迎えてくれています。

増田（以下、増）…まずは、東大寺といえば「大仏さま」を思い浮かべられる方が多いかと思いますが。華嚴宗の教え、東大寺の成り立ちと大仏さま造立にあたっての経緯などをお聞かせいただけますか。

森本（以下、森）…8世紀中頃、度重なる伝染病の流行や飢饉による食糧不足、地震など、

様々な社会不安が広がっていました。お釈迦さまが説かれた「みんなそれぞれでありながら、全てが繋がっている」という教えが記されている華嚴經を学ばれた聖武天皇は、全国に国分寺・国分尼寺を建立し、そして大仏さま（国宝 盧舎那仏坐像）を造立することをもって国を良い方向へ導こうとお考えになりました。



国宝 盧舎那仏坐像（通称：奈良の大仏さま）

東大寺は、もともと大和国分寺として建立されたので、道場でもあり、同時に仏教の教理を研究し学僧を養成する役目もありました。華嚴をはじめ奈良時代の六宗、さらに平安時代の天

台と真言も加えた各研究所（宗所）が設けられ、八宗兼学の学問寺となりました。大仏さまを建立するにあたって、天皇は、その権力をもつて「大仏さまをつくるぞ！」と命

令することは容易であるけれども、それではこころの入っていない形だけの仏さまができてしまう。聖武天皇はそのようにお考えになり、小さな力をたくさん集めてつくる、現代でいう「ボランティア精神」をもつて、皆が、自分たちが関わっていくかどうかも含め考えながらつくる、その結果として大仏さまができていく、ということ意識してつくられたのです。詔にある『動植ことごとく榮えんと欲す』つまり「人間だけでなく、動物や植物も含め、すべての生き物が榮えられるように」という考え方、それが大仏さま造立にあたっての最大の願いだったのです。

当時から、小さな力を集めて大きなものをつくるという、その精神は徹底されていました。大仏さまをつくる過程には様々な段階があり、また危険な作業も伴いますが、東大寺に残されている記録によると、その段階ごとに何人の人がどういう作業に携わってくれたか、という記述が事細かく記されています。もちろん一人で色々な作業に携わってくれた方もいらっしゃると思いますが、約260万人の

方が大仏さま造立にあたって協力をしてくださったとされています。当時の日本の総人口が約55600万人といわれる時代ですから、驚異的な数字です。詔には、『草ひとつかみ、土ひとつかみ』などと書かれていることから、聖武天皇は、幼い子からお年寄りまで、たとえ労働力としてはほんの僅かであっても、その人が作業を通じて大仏さまとご縁を結ぶ、大仏さまを通じて様々な繋がりをもち、ということが大切だとお考えになり、敢えてそのような言い方（書き方）をされたのだと思うのです。

増…そのひとつひとつの小さな繋がりが、あのような大きな仏さまを生み出すきっかけになったのです。

森…聖武天皇が打ち出された明確なコンセプトのお蔭で、後世にもその考え方が受け継がれていきました。平安末期に平重衡によって東大寺が焼き打ちされた時も、重源上人が東大寺の大歓進職としてその復興に尽力し、奈良時代の創建時と同じように多くの人がびとの賛同を得て、たくさんの方の力を結集して立

て直す、という方法がとられ復興が成し遂げられました。

しかし戦国時代には、松永氏と三好氏が東大寺周辺で繰り広げた戦の影響で、大仏殿が再び焼失し、他の多くの堂舎も失われました。大仏さまも被害が甚大で頭部も焼け落ちました。その後、お身体の一部は修復されますが、仮の頭部を付けた大仏さまは、大仏殿がない状態で100年以上もの歳月を過ごしました。

その大仏さまを復興したのが公慶上人です。公慶上人は13歳で入寺し、初めて大仏さまを拝んだ時に、たまたま雨が降っていたのだそうです。そこで「自分は雨の日に傘を差しているのに、大仏さまが雨にさらされているのは可哀想だ。大仏さまが濡れないようにしたい」という思いを持たれ、その気持ちを心に刻んで修行に励みました。そして37歳の時、その思いを実行することを周囲に宣言し、大仏さまの修復と大仏殿の再建を目指したのです。公慶上人も聖武天皇の思いを受け継ぎ、勧進帳を作って諸国を歩きました。そして、わずかずつでも資金や資材を集めたのです。これは、やはり仏教の縁の考え方があ

からこそ出来たことではないのかと思います。

増 私たちの「仏教聖典ボランティア」の活動も、全国各地の僧侶の皆さまのご協力のお蔭で成り立っています。当財団の職員は、十数名しかおりませんが、全国各地で、この活動に賛同して下さっている僧侶の皆さんのネットワークを活かし、更に賛同して下さる方がたの輪が広がり、大変大きな力を与えてくれています。なにか、大仏さま造立の経緯にも通じるような気がいたします（笑）。

森 そうですね。鎌倉時代の再建も、もちろん大変なことではあったと思うのですが、江戸時代の再建では、大仏さまの元の姿を知る人はなく、「誰も見たことがない大仏さま」を修復することになったので、その苦労は計り知れないものがあつたと思います。当時の幕府は、「勧進の承諾はするが直接関与しない」という立ち位置でしたので、公慶上人は、初めはたった一人で活動を始めました。しかし、その熱量が高かったので、7年半で資材・資金を集め、今日のかたちで修復を果たすこと

ができたのです。現代的にわかりやすく言うと、本気のリーダーがいて、それを支持するフォロワーがどんどん増えて、更に大きな広がりになったということでしょう。

増 なるほど。今も昔も人々との繋がりが重要ですね。私たちの「仏教聖典ボランティア」活動でも、協力して下さる僧侶の皆さまの地域での人望が大変厚く、「仏教」と聞くと尻込みされる方でも「〇〇さんがすすめてくれる本ならば怪しくないに違いない」と仰つて「仏教聖典」を手にとって下さる方も沢山いらつしやいます（笑）。また特に奈良のような一大仏教都市ですと、お寺さんとのご縁が深い方も多くいらつしやいますし、仏教の考え方を知っていただく機会になればと。「仏教文化」を通じて「仏教聖典」を宿泊施設に設置して下さる方もいらつしやいます。

森 「仏教聖典」をお寺の周辺の宿泊施設が置いてくださるのは自然なことと思いますし、同時に私たちが温かく受け入れていただいていることを大変あり

がたく感じています。

増 街を歩いてみると、お寺さんと宿泊業・観光業の方がたの距離感が近いように感じました。東大寺さんが地域の皆さまに愛されているからこそですね！

森 本当にありがたいことです。奈良では、宿泊施設と寺院、観光業の関係性に構築されたようです。この時は、遠方からお参りに来る方のことも考え、公慶上人は1ヶ月間落慶法



読経する森本師

要を続けたそうです。百数十年ぶりの大仏さまの復活に、当時2万数千人程度の人口だった奈良の街に20万人を超える人出があつたといわれ、その結果、野宿する人が続出し、奉行所より、一般の家でも奈良へ来られた人びとを泊めるようにとのお触れがあつたほどでした。つまり、現代の「民泊」ですね。また、周辺の神社仏閣でも参拝客が急増したそうで、春日大社さんでは、お賽銭が増えすぎてお賽銭箱の底が抜け、興福寺さんでは、猿沢池の亀や鯉への餌やりが増えすぎて魚などが浮かん

でなくなり、唐招提寺さんや薬師寺さんでも特別開扉が大人気になり、西大寺さんの豊心丹という薬は参拝客のお土産として、大ヒットしたという記録が残されています。そして、猿沢池の周辺に旅館やホテルが多いのも当時のなごりのようです。1ヶ月間の落慶法要の期間中は、道頓堀など当時非常に賑わっていた大坂（阪）ですら閑散としていたとか。奈良県と大阪府の境にある暗峠では参拝客の誘導を行う旅館の方がいたそうですし、また京都方面からくる参拝客には、

木津川を渡るための渡しや担ぎなどの特需があったそうで、これが「奈良観光」のはじまりだったのかもしれない。

一方、公慶上人の話に戻ります。上人は大仏さまが完成するまで横になって寝ず、柱にもたれて寝ておられ、落慶法要の終わった翌日には、約7年ぶりに布団に入って寝られたそうです。しかし、次には大仏さまの修復を遙かに上回る規模の大仏殿の再建が控えています。最終的には護持院隆光の取りなしで、將軍綱吉やその生母である桂昌院の理解が得られ、幕府や諸大名も協力し、結果的に大仏殿の再建に至りました。ただ、公慶上人自身は上棟式の後、報告のために訪れた江戸で58歳にして亡くなつてしまいました。大仏殿の完成を見ることは出来なかったの

ですが、特例で遺体を奈良まで運ぶことを許されました。遺体は東大寺の北側にある五劫院に埋葬されましたが、同時期に造られた公慶上人のお像は、大仏殿西側の公慶堂で大仏殿を見上げる方向に安置されており、今でも見守つてくださっているのです。

になる内容です。動植物も含め、お互いのことを思いあう、インクルーシブな仏教の考え方をわかりやすく説明してくれていると思います。

増…ありがとうございます。現在、「仏教聖典」は46カ国語版を刊行させていただいていますが、当協会の公式サイトから無料でダウンロードもできるようになっています。東大寺さんの大仏殿内の売店でも「仏教聖典」の販売をしてくださっていますよ。

を集約したもので、翻訳事業については本当に様々な方の助けになると思うので、ひとりでも多くの方に読んでいただけたらと思っています。特に英語版は、東大寺を訪れる多くの外国人観光客の方が興味を持って手に取ってくださっているようです。「仏教聖典」の存在があることで、東大寺参拝後、自宅に帰ってから更に仏教の考え方を学んでいただけるので、ありがたい存在です。

さんいらっしゃいますね。

森…そうなのですね！東大寺には「檀家制度」がありませんが、ひよつとすると、それが逆に地域全体の繋がりになっている要因なのかもしれません。そもそも一般の方にしてみれば、「華厳宗」といつても聞いたことがない宗派名でしょうし（笑顔）、「仏教聖典」を通じ、

仏教をひろく学ぶ機会として日常生活に取り入れてもらえたらと思います。奈良のホテルや旅館に宿泊される方は、少なからずお寺を参拝される方が多いでしょうし、日頃から繋がりを大切にしていきます。土地柄はもちろんなあるかと思いますが、設置費用は無料ですし、宿泊施設に「仏教聖典」を置いてマイナ

スはないと思います。教育現場においても、私たちが運営する東大寺学園ではいわゆる仏教の授業はありませんが、教養として学生のうちに仏教の考え方を学んでおくことは重要だと考えていますので、「仏教聖典」を入学時の参考図書として学生の皆さんに配布しています。ごくくしつかり読んでくれる学生もいて驚かされることもあります（ほほえみながら）。



森本公穰

もりもと こうじょう

華厳宗東大寺塔頭清凉院住職。昭和43年生まれ、15歳で得度。龍谷大学大学院仏教学専攻博士課程修了（単位取得退学）。東大寺図書館副館長、東大寺福祉事業団常任理事、東大寺学園常任理事、東大寺庶務執事などを経て現在、東大寺大仏殿院主・華厳宗財務部長・東大寺財務執事。修二会（しゅにえ、お水取り）参籠21回（令和7年4月現在）。認定NPO法人おてらおやつクラブ相談役。

森…「仏教聖典」は仏教の基本的な考え方を現代的な理解で活かせるような、実生活の手助け

森…東大寺でも外国人観光客の方が増え続けていますので、公式サイトは現在8カ国語で展開していますが、「仏教聖典」は仏教の基本的なエッセンス

なる方もいらっしゃいますが、地域に受け入れられている大寺院のお名前を出させていただく、急に受け入れてくださったという事もあります（笑）。現代の旅館やホテルでは、施設のコンセプトと違うので、少しでも雰囲気損なうものは置きたくないというお話もよく聞きます。信仰とビジネスのコンセプトとは違うので「仏教聖典」を置きたくないという方もた

増…大変有難いことです。東大寺さんを取り巻く環境は、いにしえの時代から受け継がれてきた華厳経の教え、すなわち「全てのものの繋がり」を大切にするという考え方に戻っていくのですね。「仏教聖典」もその繋がりの一助になれば幸いです。本日はありがとうございました。

今回は、地域の皆さまと支え合い繋がりを大切にしながら活動して下さっている森本公穰師にお話を伺いました。現代の観光業の先駆けとなった歴史も踏まえ、「仏教聖典ボランティア」という存在が繋ぐ素晴らしいご縁を再認識すると共に、今後の活動に何が必要なのかを改めて考える良い機会となりました。仏教伝道協会では「仏教聖典」の他に観光地でも人気の赤い冊子「はじめての仏教」なども「仏教聖典ボランティア」に参加して下さっているお寺には無料で提供しています。

※「仏教聖典」やその他出版事業に関するお問い合わせは、仏教伝道協会公式サイトをご確認ください。
<https://www.bdk.or.jp>

施設紹介

「仏教聖典」をご活用いただいている主な施設のご紹介



大仏殿内（大仏さま裏側）の売店にて販売されている「仏教聖典」
多い日は一日に何冊も売れることもあり、多くの外国人観光客の方が足を止めている



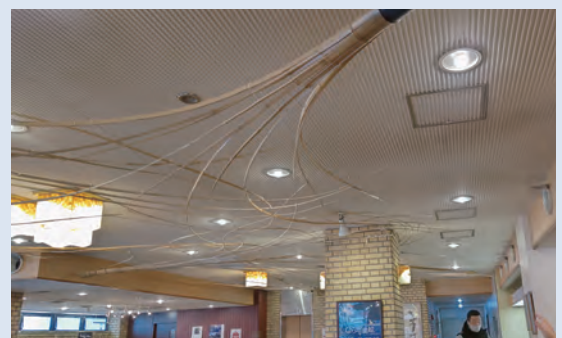
「ロビー内ライブラリーには文庫本サイズを設置しているので観光客の皆さまにも手に取りやすいよう人気です 客室には上製本を置かせていただいています 今後もぜひ奈良ならではのおもてなしとして活用させていただきたいですね」
(HOTEL尾花代表取締役社長 中野聖子氏)



中野聖子代表取締役社長（左）



ベッドサイドに設置されている「仏教聖典」



ロビー天井に展示されている東大寺修二会で使用された松明

〈2024年の「仏教聖典」頒布状況〉 1月～12月

	件数	寄贈冊数	販売冊数
国内	ホテル（新規）	18	1,471
	ホテル（補充）	36	2,497
	病院（新規）		
	病院（補充）	4	48
	学校（販売）	9	11,916
	学校（寄贈）	291	23,752
	寺院（販売）		2,389
	寺院（寄贈）		352
	一般他販売		274
	書店 寄贈		1,659
	国内頒布数計	29,126	16,238
海外	海外協力機関		12,376
	ホテル（新規）	2	80
	ホテル（補充）	20	1,880
	その他		2,404
	海外頒布数計		16,740
		45,866	16,238
総計			62,104

Activity 01

令和6（2024）年度「仏教聖典」頒布状況

「仏教聖典」累計印刷数1,000万冊達成

改訂版『和文仏教聖典』発行

2024年は、「仏教聖典」頒布の大きな節目となる年でした。

仏教伝道協会は設立以来、仏の教えを全世界の人びとに伝え、平和な社会の実現に役立てるために、

今日まであらゆる機会を捉えて「仏教聖典」の頒布に努めてまいりました

が、お蔭さまをもちまして、2024年11月に「仏教聖典」累計印刷数1,000万冊を達成しました。

またかねてより進めてまいりました『和文仏教聖典』の改訂を完了し、2024年4月改訂版『和文仏教聖典』として発刊

しました。竹村牧男委員長をはじめとする仏教聖典編集委員会と桂紹隆氏（前理事長）が中心に行った今回の改訂により、本文はより読みやすく、出典をより明確に、仏教通史等の付録も新たに、より現代に即したものととして充実させまし

た。仏教聖典副読本『さとの知恵を読む』、小冊子『ブツダのおしえ』も併せて改訂しました。

これまで制作・頒布にご協力いただきました皆さまに、改めて感謝するとともに、今後も「仏教聖典」を通じて、仏教の叡知を一人

でも多くの方がたへ伝える活動に尽力してまいりますので、皆さまのご理解、ご協力をお願い申し上げます。

改訂版『ゾンカ語仏教聖典』

寄贈式典（ブータン王国）

2024年4月23日

仏教伝道協会は、長年海外での「仏教聖典」頒布にも力を入れていきます。

世界で唯一チベット仏教を国教とするブータン王国への改訂版『ゾンカ語仏教聖典』10,000冊の寄贈は、その一環として実施いたしました。

ブータン王国は、九州ほどの面積の山岳地帯に約80万人が暮らし、日本とは、皇室・王室間の交流や農業振興指導をはじめとする経済協力を通じて、友好な関係を構築しています。

ブータン王国の皆さまに、その国語であるゾンカ

語で『仏教聖典』を読んでいたきたいとの沼田智秀氏（第二代会長）の願いのもと、平成11（1999）年に今枝由朗氏（元京都大学特任教授）をはじめ多くの方がたのご協力で『ゾンカ語仏教聖典』の翻訳と、ブータン王国への3,000冊の寄贈が実現しました。

しかし、それから25年が過ぎ、『ゾンカ語仏教聖典』も時代の変化に伴いアップデートを必要としていたと



公益財団法人 仏教伝道協会 令和6（2024）年度の主な活動



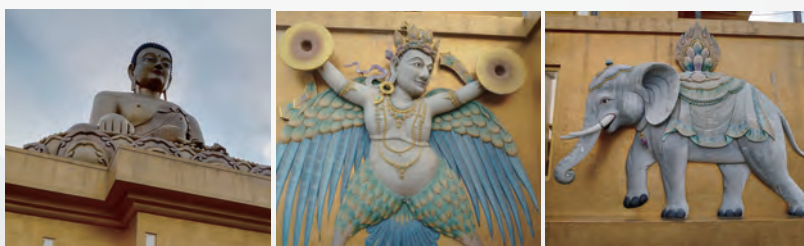
式典にて祭壇に設えられた「改訂版ゾンカ語聖典」



「改訂版ゾンカ語聖典」を受け取ったブータン科学と心の研究所の学生たち



式典にて「改訂版ゾンカ語聖典」のお披露目
(左から木村会長、ランドル祝下、ツェリン閣下)



木村会長と笑顔で会話されるツェリン閣下(左)



開式の挨拶をするチョーテン・ドルジ事務次官

ころ、当協会が運営する「BDK Fellowship」外国人留学生奨学金」の受給者として京都大学で学ばれ、現在ブータン王国中央僧院で活躍されているチョーテン・ドルジ氏とご縁が繋がりました。ドルジ氏は「ゾンカ語仏教聖典」の改訂作業と頒布活動への支援を快諾してくださり、2023年7月に平成24（2012）年版『英文仏教聖典』を元とした改訂版『ゾンカ語仏教聖典』刊行、並びにブータンへの10,000冊の聖典寄贈と贈呈式が実現しました。

2024年4月23日、ブータンの首都ティンプーのフェンデリングホテルにて、ブータン王国中央僧院教育研究評議会会長カルマ・ランドル祝下、ブータン王国内務大臣ツェリン閣下を主賓にお迎えして「改訂版『ゾンカ語仏教聖典』贈呈式」が挙行されました。1万冊もの仏教書の寄贈はこれまでに例がなく、ブータン王国内でも話題となり、国営テレビでも式典の様子が放映されました。

式典では、木村清孝会長が「この聖典をブータンの素晴らしい文化と精神の大地に根づかせ、貴国が目指す「本当の幸せの国」の実現に少しでも役立てていただきたい」との願いを述べられ、主賓に改訂版『ゾンカ語仏教聖典』を手渡されました。答辞としてランドル祝下より仏教伝道協会への謝辞をいただき、無事贈呈式を終了しました。

なお、10,000冊の改訂版『ゾンカ語仏教聖典』は順次、寺院・教育機関・図書館等に寄贈され、ブータンの皆さまより感謝の声をいただいています。



寺院の片隅でチベット式禅問答の練習をする修行僧たち

02 Activity

「英訳大蔵経」出版状況

「大蔵経」翻訳事業は、第一期翻訳予定139典籍の約81%を終え、令和9（2027）年の翻訳終了を目指し着実に歩みを進めています。令和6（2024）年度は、『中阿含経(4)』（全4巻刊行）、『法苑珠林(6)』の

計2冊を英訳大蔵経シリーズとして刊行しました。『中阿含経(4)』は、4世紀末に毘曇僧伽提婆によって漢訳された初期仏教の重要な経典と位置づけられており、今回の「馬邑経」から最後の「例経」までの13巻

41経典を収録したこの第4冊目の刊行をもつて記念すべき世界初の英訳が完結しました。『法苑珠林』は、唐の道世が編纂した仏教百科全書で、全100巻からなる膨大な量です。仏教の教義・信仰・儀式などに関

する解説や説話を集成したもので、内容別に100篇668項に分類されています。これまでに第34巻（第5冊）までを刊行しましたが、今回の第6冊は第35巻から第40巻までを収録しています。



BDK「英訳大蔵経」シリーズ

03 Activity

「輝け！お寺の掲示板大賞2024」開催



お寺の掲示板大賞ホームページ



お寺の掲示板大賞2024大賞作品
超覚寺（広島県）

「輝け！お寺の掲示板大賞2024」を開催しました。平成30（2018）年に始まった当企画も今回で7回目。令和6（2024）年は7月1日（9月30日までの応募期間中にX、Instagramを合わせて3,755作品が集まりました。多くの投稿作品の中で、広島県の真宗大谷派超覚寺の掲示板「望むと望まないとあなたはひとりじゃない」が大賞に

選出されました。

私たちは人間・生物・自然を含め無数の目に見えない繋がり（縁起）の中で生かされています。社会の中の孤独・孤立問題が深刻化し、分断が強く叫ばれる現在の世の中だからこそ、「繋がり（縁起）を離れて生きている人は存在しない」ということを想起させる掲示板でした。

その他各賞の受賞作は当協会公式サイトにてご覧く

ださい。

<https://www.bdk.or.jp/kagayake2024/publication.html>



公益財団法人 仏教伝道協会 令和6(2024)年度の主な活動



瑞巖寺本堂

Activity
04

第11回「一日一訓カレンダー フォトコンテスト」開催

第10回「一日一訓カレンダー フォトコンテスト」開催

フォトコンテスト入選作品写真展」開催

(於 瑞巖寺・平等院・築地本願寺)

■第11回「一日一訓カレンダー
フォトコンテスト」

平成26(2014)年より

毎年開催している当コンテストは第11回目の開催となり、今回は応募総数731件、2,939枚の作品が集まりました。

令和6(2024)年9月にカレンダーフォトコンテスト選考委員会を開催し、表紙を含む32枚を選定、入選者に賞状と賞金を贈呈しました。

なお、入選作品は2026年「一日一訓カレンダー」に掲載され、当協会公式サイトでも作品をご覧いただくことが出来ます。

■第10回「一日一訓カレンダー
フォトコンテスト」入選
写真展」

「第10回「一日一訓カレンダー
フォトコンテスト」の入選作品
の写真展を4月12日から6
月10日まで瑞巖寺本堂、6月
14日から9月8日まで平等院

ミュージアム、9月13日から
11月7日まで築地本願寺本
堂にて開催しました。

来場者数は3会場あわせて
72万人を超え、多くの方がた
に写真と仏教的な金言名句
に親しんでいただきました。



平等院ミュージアム



築地本願寺本堂

2 助成・表彰事業

Support / Commendation

奨学金事業報告

仏教伝道協会では「外国人留学生奨学金」および「日本人留学生奨学金」（通

称：BDK奨学金）を設置し、仏教研究を志す皆さまを支援する奨学金事業を展開しています。

「日本人留学生奨学金」制度

「日本人留学生奨学金」は、日本から海外へ渡り幅広い視野を養い、将来の仏

それぞれの研究に日々邁進しています。

第12回目となる令和7（2025）年の奨学生は、2024年10月に開催された審査委員会により左記の通りに決定し、支給を開始しました（2025年6月現在）。

第12回 令和7（2025）年 受給者

◆伊集院 栞（いじゅういんしおり）

■受給期間：6ヶ月（2025年4月～9月）

■所 属：オーストリア・オーストリア科学

アカデミアアジア文化・思想研究所

■研究内容：アーナンドガルバ著

『ヴァジュラジュヴァーローダー』の研究

■指導教授：ニーナ・ミルニヒ博士

第10回 令和5（2023）年 受給者

◆中山 慧輝（なかやまけいき）

■受給期間：3年目

（3年間、2023年4月～2026年3月）

■所 属：ドイツ・ライプツィヒ大学

インド学・中央アジア学研究所

■研究内容：『瑜伽師地論』『撰異門分』研究

— 瑜伽行派の経句解釈 —

■指導教授：ヨーヴィタ・クラマー教授

第11回 令和6（2024）年 受給者のご紹介

奨学生への質問

- 1 仏教伝道協会の奨学金制度への応募のきっかけ
- 2 受給して最も良かったと思うこと、今後の展望
- 3 留学先の生活で一番気に入っているところ（または驚いたところ）

◆安川 真由（やすかわまゆ）

■受給期間：1年間（2024年4月～2025年3月）

■所属機関名：オーストリア・ウィーン大学

南アジア・チベット仏教研究所

■研究内容：曇無讖訳『大般涅槃経』（T・374）

「増広部分」の成立過程について

■指導教授名：クリストファー・V・ジョーンズ助教

た。そこで縁あって留学の予定が立ったとき、奨学金制度への応募を決めました。身近に奨学金制度を利用した経験のある先輩たちがおり、相談することができたことも後押ししてくれました。

- 1 以前より、仏教伝道協会の奨学金制度については 知っており、機会があれば応募したいと考えていまし

- 2 奨学金のおかげで金銭的

公益財団法人 仏教伝道協会 令和6（2024）年度の主な活動



オーストリア風ワイン酒場「ホイリゲ」にて日本人研究者の方々と（安川氏：右手一番前）

世界で「仏教」を学ぶあなたをサポート
本奨学金は、仏教伝道に従事する日本人の若手研究者または大学院生が日本国外の大学や研究機関で仏教研究を行い、学んだ知識の裾野をひろく世界に広げていこうという思いから仏教研究奨励金を目的として設立されました。

ライフプランに合わせて選べる受給期間
短期留学支援は最長2か月～6か月 長期留学支援は最長3年まで対応
短期留学支援 月額 30万円
長期留学支援 年額 360万円（単身）420万円（家族帯同）

DON'T BE AFRAID TO
DREAM BIG!
2025 BDK FELLOWSHIP

「外国人留学生奨学金」も同時募集中
詳細は<https://www.bdk.or.jp>またはこちらから

奨学金制度に関するお問い合わせは BDKFELLOWSHIP@BDK.OR.JP まで
©BUKKYO DENDO KYOKAI

2025 BDK Fellowship 募集用ポスター

「外国人留学生奨学金」制度

外国人留学生奨学金は、海外から来日し仏教について研究をする外国籍の研究者または学生に対して、それぞれが自国に戻り、日本で学んだ仏教精神、文化等

を学問を通じ、弘く世界に伝えていただきたいとの願いから平成3（1991）年に外国人留学生奨学金が設立されました。

（2025）年の奨学生は、2024年10月に開催された審査委員会により左記の通り決定し、支給を開始しています（2025年6月現在）。

な心配をする必要がなく、研究に集中することができた点が最も良かったことです。ウィーンはヨーロッパの中でもインド学の研究者が多く集まる場所であり、オープンレクチャーやワークショップがさかんに開催されていました。自身の研究分野であるインド大乘仏教だけでなく、広くインドという地域における研究

に触れることで、より大きな視野から自身の研究課題を見つめ直すことができました。また指導教授であるジョーンズ助教授より、英語でのプレゼンテーションの作り方や論文の書き方を指導いただきました。この経験は、今後英語での学会発表や論文投稿するに当たり活かすことができると思います。

③ ウィーン大学の南アジア学・チベット仏教研究所専門の図書館は必要な書籍や論文が揃っており、また小さな建物であるため静かで落ち着いた空間であり、自習がはかどるお気に入りのスペースでした。スタッフの方も親切で距離が近く、図書館を訪れると気軽に話しかけてくれたことが嬉しかったです。

第34回 令和7（2025）年 受給者（申込順）

◇ Bo Pang（ボン・ハク 龐博）

■ 受給期間…1年間（2025年4月から2026年3月）

■ 所 属…東京大学東洋文化研究所

■ 研究内容…吉藏因縁思想研究

―『中観論疏』を中心に―

■ 指導教授…柳幹康 准教授

◇Amina Sabyr (サビール・アミナ)

■受給期間：1年間(2025年4月から2026年3月)

■所 属：広島大学

■研究内容：チベットの思想家達の視点から見るパーヴィ
ヴェーカ思想・ジクメ・タムチュ・ギャム
ツォ作『了義未了義入門』の分析

■指導教授：根本裕史 教授

第32回 令和5(2023)年 受給者のご紹介

奨学生への質問

- 1 仏教伝道協会の奨学金制度への応募のきっかけ
- 2 受給して最も良かったと思うこと、今後の展望
- 3 日本の生活で一番好きなところ(または驚いたところ)

◇Mingyuan Gao (ミンゲン・高明元)

■受給期間：2年間(2023年5月〜2025年4月)

■所属機関名：早稲田大学

■研究内容：「習気／熏習」の概念と
「種子」との関係について

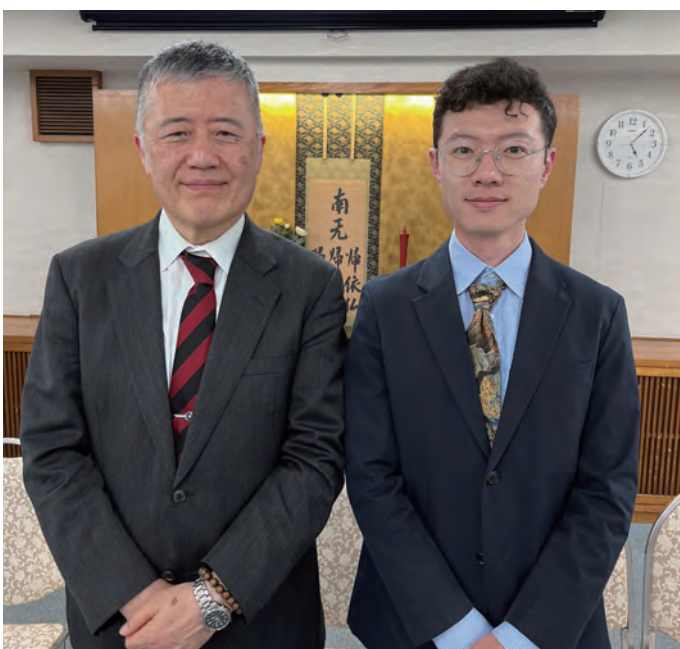
■指導教授名：山部能宜 教授

1 私は2019年に博士課程を修了して以来、自身の博士論文を大幅に改訂し、出版することを目指してきました。しかし、香港大学での多忙な教育業務により、新たな研究に十分な時間を確保することが難しい状況が続いていました。ちょうどその頃、山部能宜

1 先生が私の研究に関心を持ってください、ご紹介を通じて仏教伝道協会の外国人留学生奨学金に応募しました。仏教伝道協会の奨学金は仏教学に特化した制度であり、一般的な学術助成金と比べても、より専門的な視点から審査が行われると考えています。日本での

2 ポストドクターとしての研究機会を得ることで、習気と種子という複雑なアビダルマと瑜伽行派の問題をより明確にできるのではないかと考えていたからです。

2 日本での生活は、研究以外の業務に時間を取られることなく、複雑な研究テーマに深く取り組むことができる貴重な機会でした。早稲田大学では、豊富な研究資料にアクセスができ、優れた研究者との交流を通じて学術的なネットワークを広げることができました。



奨学生交流会にて：山部能宜教授（左）Mingyuan Gao氏（右）

日本仏教の豊かな伝統と素晴らしい環境は、仏教学研究に最適な場所だと感じています。山部能宜教授のクラスで研究成果を発表する機会を得た際には、国内外の研究者から貴重なフィードバックをいただきました。

私の日本での主な目的は、学術書『The Buddhist Concept of Vāsanā: A Genealogical Study』を完成させることです。この書籍は2025年内に『Wiener Studien

zur Tibetologie und Buddhismuskunde (WSTB)』にて出版予定です。また、エルサレム・ヘブライ大学でのワークショップ、第75回日本印度学仏教学会学術大会での発表、復旦大学でのオンライン講演、早稲田大学での公開講演など、様々な学術活動にも積極的に参加し、東京大学でのワークショップも予定しています。

今後は、アビダルマおよび唯識の研究を大学や研究

令和6 (2024) 年度の主な活動

機関でさらに進めていきたいと考えています。また、次世代に仏教の知恵を伝えることを目指しています。BDK奨学金のお蔭で、日本の学術界とのつながりを持つことが出来たので今後交流を継続していきたいと考えています。

3 日本での生活で気に入っていることは数多くあります。人々の親切さや温かさ、食事、都市の静けさ、清潔さ、秩序、開放感、利便性など、ほとんどすべての面に魅力を感じています。東京での生活が長くなるにつれ、この街への愛着はますます深まっています。

その中でも特に気に入っている点の一つ挙げるとすれば、日本の自然環境、特に東京の公園の環境です。東京での生活は研究と執筆に専念していたため、自宅と大学以外の場所に出かけることは殆どありませんでした。しかし、執筆に行き詰まった際に、日本でよく言われる「気分転換」の考え方が非常に効果的である

ことを実感しました。天気の良い日には、ノートパソコンを持って公園の芝生に座り、日没まで作業をすることもあり、自然の中で過ごすことで、それまで行き詰まっていた考えがふと整理され、思考が明確になることが度々ありました。

「日本人留学生奨学金」および「外国人留学生奨学金」制度について、過去の受給者実績や今後の募集についての詳細は、公式サイトをご確認ください。



第58回「仏教伝道文化賞」贈呈式開催 (於 仏教伝道センタービル) 2024年10月17日



第58回受賞関係者



第58回仏教伝道文化賞贈呈（グローナー氏）



第58回沼田奨励賞贈呈（吉永氏）

令和6（2024）年10月17日、仏教伝道センタービル8階にて贈呈式ならびに祝賀披露宴を執り行い、72名のご出席をいただきました。

仏教伝道文化賞受賞のポール・グローナー氏（アメリカ・ヴァージニア大学名誉教授）は、日本文化と仏教の研究に尽力し、翻訳を通じて日本仏教を諸外国に伝え、また日本において若手研究者の育成に貢献した功績が讃えられました。グローナー氏は、恩師のスタンリー・ワインスタイン氏（アメリカ・イエール大学名誉教授）や平川彰氏（東京大学名誉教授）との思い出話などを披露し、感

謝の意を表されました。沼田奨励賞受賞の吉水岳彦氏（浄土宗光照院住職）は、仏教の慈悲の精神に基づき、夜間の見廻り等、その宗教的社会的活動が高く評価されていたの表彰となりました。「路上生活者との出会によって自分自身が育ててもらった」と語り、今後より一層精進していくことを誓われました。

公益財団法人 仏教伝道協会 令和6(2024)年度の主な活動

令和6(2024)年度「助成金事業」報告

仏教伝道協会では、当協会の公益事業目的に賛同し、国内外にて積極的な活動を行っている個人または団体を支援するため、活動助成金を交付しています。

令和6(2024)年度は、22件の団体または個人から申請があり、公正な審査の上、15件の団体または個人への助成金交付が決定しました。当協会の「助成金制度」についての詳細は、公式サイトをご確認ください。

<https://www.bdk.or.jp/bdk/jyosei/jyoseikin.html>

B. 海外協力機関活動支援助成金

団体名	申請事業内容
BDK Asia	仏教聖典の頒布活動
BDK Taiwan	仏教伝道協会の出版物の頒布

C. 団体支援助成金

団体名	申請事業内容
日本印度学仏教学会	情報化対応を介した国際的学術交流及び文化貢献の促進事業
特定非営利活動法人鎌倉てらこや	鎌倉てらこや大学・寺社・行政・市民ボランティアの協働による地域コミュニティ再興事業
公益財団法人中村元東方研究所	公益財団法人として研究調査事業・研究助成事業・顕彰事業・普及事業
特定非営利活動法人 全国てらこやネットワーク	てらこやネットワーク事業

D. 事業支援助成金 - D-1. 仏教精神・文化普及活動及び人道支援活動

団体名	申請事業内容
公益財団法人全国教誨師連盟	教誨師研修事業
公益社団法人シャンティ 国際ボランティア会	宗教施設を活用した防災減災推進事業
一般財団法人お寺と教会の 親なきあと相談室	「親なきあと」問題を解決するためにお寺と教会を活用した「地域コミュニティ」の形成プロジェクト
The Buddhist Society	設立100周年記念連続講座：日本仏教

D. 事業支援助成金 - D-2. 仏教学術振興活動

団体名	申請事業内容
龍谷大学 龍谷ミュージアム	2024年度 春季特別展「パーミヤン大仏の太陽神と弥勒信仰ーガンダーラから日本へー」
Verein fur Komparative Philosophie und Interdisziplinäre Bildung /KoPhil	KoPhil 連続講座：仏教哲学と現代科学の対話
Numata Center for Buddhist Studies (ハンプルク大学沼田仏教学センター)	ハンプルク大学沼田仏教学センターにおける仏教講座運営
ハワイ仏教文化財研究会	ハワイ日本仏教寺院の文化財資料を中心とした研究と保存、継承

D. 事業支援助成金 - D-3. 仏教文化財保護活動

団体名	申請事業内容
東京藝術大学大学院 美術研究科文化財保存学専攻保存 修復彫刻研究室	仏教彫刻の調査・研究を通じた文化財保存修復の育成事業

3 啓蒙活動・支援事業・仏教講座の開催

Enlightenment / Support / Buddhism course

01 Activity オンライン法話会 「週刊法話ステーション」

令和3（2021）年
1月からスタートしたオ
ンライン法話会「週刊法
話ステーション」。毎月
テーマに沿って、毎週様

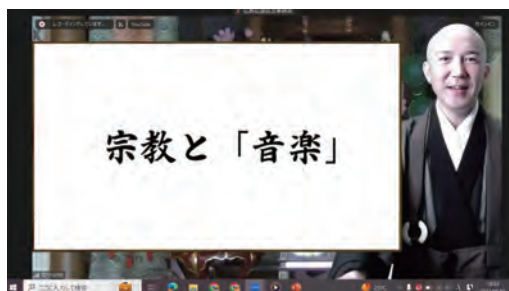
ざまな宗派の僧侶にお話
しいただいてきました。
令和7（2025）年3
月には通算200回目の
放送となり、視聴者から

は、「仏教を身近なもの
に感じられた」「わかり
やすかった」など、たく
さんのご感想をいただき
ました。

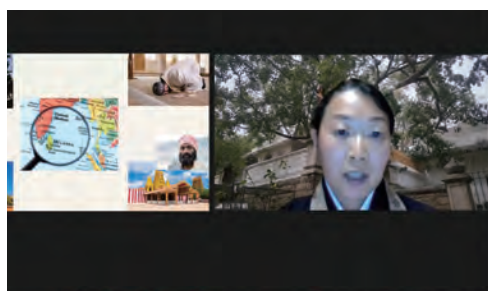
7（2025）年度は、
さらに工夫を加え新たな
法話を配信予定です。



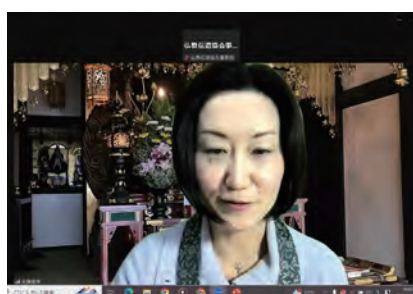
仏教伝道協会
YouTube
チャンネル



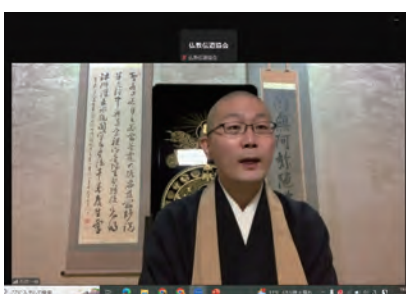
2024年6月 関守研悟師



2024年8月 山下千朝師



2024年12月 佐藤直実師



2024年1月 石田一裕師

2024年度月間テーマ・出演講師（敬称略）

4月 「出会い」	高橋 悦堂	10月 「エネルギー」	河野 裕韶
	杉浦 道雄		吉岡 寛和
	神田 英昭		竹本 了悟
	千田 明寛		河又 宗道
5月 「怒り」	小林 恵俊	11月 「文化」	岩田 尚登
	桜庭 尚吾		清水谷 尚順
	泰円澄 一法		柱本 惇
	並木 泰淳		吉岡 妙由
6月 「音」	関守 研悟	12月 「推し」	楠 恭信
	玉腰 暁広		原山 佑成
	三浦 明利		中村 玲太
	天納 玄雄		朝倉 行宣
7月 「海」	武田 慶之	1月 「言葉」	佐藤 直実
	早島 英観		難波 教行
	梶井 照陰		石田 一裕
	石川 重元		吉弘 一秀
8月 「争い」	東海林 良昌	2月 「身体」	西田 稔光
	武田 正文		加藤 拓雅
	緑川 明世		藤井 隆英
	山下 千朝		小坂 興道
9月 「文学」	南條 了瑛	3月 「精進」	塚本 一真
	渡辺 秀憲		河口 智顕
	英 月		横溝 常之
	小山田 和正		塚田 博教

Activity 02 FM大阪 「笑い飯哲夫のサタデー★ナイト仏教」

好評放送中！



哲夫氏（左）玉置妙憂氏（右）



哲夫氏（左）いとうせいこう氏（右）

毎週土曜日深夜24時15分
から30分に放送している
ラジオ番組「仏教伝道協会
presents 笑い飯哲夫のサタ
デー★ナイト仏教」はシー
ズン7を迎えました。

僧侶と著名人のゲストを
月替わりで迎え、笑い飯哲
夫氏とのトークを通じてリ
スナーの皆さまに、仏教を
身近に感じていただいてい
ます。この番組をきっかけ
に仏教を知ったというリス
ナーも多く「友だちから勧
められて聞き始めました。

ど、多くの反響をいただい
ています。
番組に寄せられるお悩み
相談のメッセージも徐々に
長くなり、リスナーの皆さ
まが、日常生活に仏教を取
り入れるためのヒントを真
剣に探している様子が感じ
られます。

2024年度出演ゲスト（敬称略、肩書：出演当時）

4月	安永雄玄 （本願寺執行長）	10月	福井良應 （真言宗興山寺住職・おてらおやつクラブ理事）
5月	いとうせいこう （タレント）	11月	古館伊知郎 （タレント）
6月	小池陽人 （須磨寺寺務長）	12月	土師幸士 （浅草神社宮司）
7月	川谷絵音 （ミュージシャン）	1月	パンサー 向井慧 （タレント）
8月	玉置妙憂 （看護師・僧侶）	2月	藤田一照 （曹洞宗僧侶）
9月	森三中 黒沢かず子 （タレント）	3月	細野晴臣 （ミュージシャン）

03 Activity

「仏教伝道協会2024花まつり」開催

2024年3月22日～4月8日

仏教の開祖であるお釈迦様の誕生日をお祝いする「花まつり」を皆さまに親しんでいただくため公益財団法人全日本仏教会主催「第7回花まつりデザイン募集」の入選作品の原画14点を仏教伝道センタービル1階ロビーに展示しました。色彩豊かな作品が並び、それぞれの作者の想いや願いをたくさんの方が感じていただくことができました。

また公益社団法人全日本仏教婦人連盟より提供の「花の種」、大和証券株式会社より提供のポスター大賞作品が印刷された「サクマドロップス」を配布しました。



「花まつり」特別展示（仏教伝道センタービル）



公益財団法人 仏教伝道協会 令和6（2024）年度の主な活動

Activity 04

「仏教聖典を経営に活かす会・生活に活かす会」 年間開催報告



経営に活かす会（一楽氏）



経営に活かす会（千葉氏）



生活に活かす会（松本氏）



生活に活かす会（名取氏）



合同研修会（鹿野大仏）

■**仏教聖典を経営に活かす会**
仏教精神を学び、事業経営に活かしていただくための月例講座です。一楽眞氏（大谷大学学長）、千葉公慈氏（東北福祉大学学長）を招き、月1回（第4金曜日18時・全10回）開催。講義後は講師を囲み、懇親会を開催しました。

■**経営・生活 合同研修会**
（日帰りバスツアー）
2024年4月16日
活かしていただくための月例勉強会です。名取芳彦氏（真言宗豊山派 密蔵院住職）、松本智量氏（浄土真宗本願寺派 延立寺前住職）を招き、月1回（第4火曜日13時半・全10回）開催。講義後は講師を囲み、茶話会を開催しました。

「多摩ゆかりの寺院を訪ねて」と題し、金剛院（高野山真言宗）と延立寺（浄土真宗本願寺派）を参拝しました。加えて山口豊氏（株式会社翠雲堂代表取締役）のガイドで鹿野大仏（曹洞宗）と塩船観音（真言宗醍醐派）も参拝。33名が参加し、充実した1日研修会となりました。



合同研修会（金剛院）



合同研修会（延立寺）



合同研修会（金剛院にて阿字観体験）



合同研修会（延立寺）

公益財団法人 仏教伝道協会
令和6（2024）年度の主な活動



参加者集合写真（持田日勇法主猊下：前列中央）



浜島氏による唱題行



豊田氏による高座説教



望月氏による講義



団扇太鼓

Activity 05

第52回実践布教研究会開催

（於日蓮宗総本山身延山久遠寺）

2024年5月22日、24日

第52回実践布教研究会は、日蓮宗総本山身延山久遠寺（山梨県）にて開催しました。宗派を超えて、僧侶・寺族ら14名が参加し、「日蓮聖人の仏道くお題目に学ぶ」をテーマに研鑽を深めました。開講式では持田日勇法主猊下より「御経頂戴の儀」を賜り、励ましのお言葉をいただきました。また浜島典彦氏（身延山久遠寺総務）ご導師の

もと唱題行を体験し、望月真澄氏（身延山大学特任教授）による講義、豊田慈證氏（身延山久遠寺副総務）による高座説教の実演を通して、日蓮聖人の教えを学びました。

分科会では、「日本仏教の未来」というテーマで参加者同士が熱心に意見を交わし、その他、水行、朝課参列、奥の院参拝等を行い、大変充実した研究会となりました。

06 Activity

書道パフォーマンスおよび人形劇 (於 平等院) 2024年6月28日〜29日



書道パフォーマンス



うちわサイン会



人形劇

毎年、平等院（京都府宇治市）での写真展の期間中に、書家の鈴木猛利氏による書道パフォーマンスを開催しています。午前、午後の2回実施し、午前の部では「和風細雨（わふうさいう）」、午後の部では「明窓浄机（めいそうじょうき）」の文字を揮毫。大きな

用紙にダイナミックに文字を書く姿は会場を大いに沸かせました。その後、好きな漢字一字をうちわに揮毫する鈴木猛利氏のサイン会も開催しました。

また書道パフォーマンスの前日には、宇治市内にある幼稚園に通う園児の皆さんをご招待し、人形劇演

者・研究者の渇見英明氏による人形劇を開催。終始笑いの絶えない、楽しいひと時となりました。

書道パフォーマンスおよび人形劇の様子は、当協会公式YouTubeチャンネルにてご覧いただくことが出来ます。



仏教伝道協会
YouTube
チャンネル



小川先生によるレクチャー

07 Activity

ワークショップ

「チベット医学と仏教」開催

（於 仏教伝道センタービル） 2024年6月29日



リサ・グランバック氏による講義

08 Activity

「仏教を英語で学ぶ会2024」 （於 仏教伝道センタービル）

2024年4月～12月…全9回 年間開催報告

「仏教を英語で学ぶ会」は平成23（2011）年に始まり、これまで多くの方がたに英語を通じた仏教学習の機会を提供してきました。

義を行い、仏教の始まりから日本仏教までを概観しました。言語は日本語と英語を併用し、受講者は英語を通して仏教を学びました。

令和6（2024）年度

令和7（2025）年度

は、大來尚順氏（浄土真宗本願寺派超勝寺住職）、リサ・グランバック氏（龍谷大学講師）、伊藤 真氏（東洋・大正大学非常勤講師）が、それぞれ3回の講

義を行います。（最新情報は当協会公式サイト・SNSをご確認ください）

■チベット医学と仏教の関係について学ぶワークショップを開催！

生薬の「黄檗」としても知られるキハダの樹皮を煮出して軟膏を作るワークショップを開催！

クシヨップを開催しました。講師は日本で唯一のチベット医、小川康氏（薬剤師）。前半は、薬剤師の立場からキハダの効用と現代医学に与えている影響をお

話いただきました。後半は、講師がチベット仏教文化圏への留学で得た経験を紹介しつつ、参加者が煮出したキハダを用いて軟膏を製作しました。

参加者からは、具体的にキハダの軟膏づくりを体験できたことに加え、チベット仏教のことを知ることができ、とても良い機会になったとお声をいただきました。

「仏教を英語で学ぶ会 特別集中講座 英語で読む『般若心経』」 (於 仏教伝道センタービル) 2025年1月～3月..全4回 開催

令和5(2023)年に
ご好評をいただいた英訳
『般若心経』の講読講座「
英語で『般若心経』」を「
仏教を英語で学ぶ会」の特

別集中講座として開講しま
した。前年に引き続き藤田
一照氏(曹洞宗僧侶)を講
師に迎え、漢訳と複数の英
訳を比較しながら『般若心

経』について多角的な解釈
を学びました。
英訳經典を読む講座とい
う他では見られない珍しさ
もあり、定例開催よりも多

い102名の方にご参加い
ただきました。また、英訳
テキストを読むという講座
スタイルは英語で仏教を学
ぶことの意義が実感しやす

09 Activity 「仏教ヨガ講座」 年間開催報告 2024年4月～12月



特別集中講座 (藤田氏)

高野山真言宗僧侶であ
り、月間のべ1,000名
にアシタンガヨガ指導を
行うMOMO氏による「仏
教ヨガ講座」は4年目を迎
えました。ヨガのレッスン
前には必ず三帰依文をお唱
えし、仏教に馴染みがない
方にもわかりやすい法話の
時間を設けています。ア
シタンガヨガは一連の
ポーズを特定の順序で行い
ますが、本講座では最初の
シリーズ「プライマリーシ
リーズ」を練習していま



MOMO氏指導による「仏教ヨガ講座」

タートし、徐々に難易度が
高くなつていきますが、初
心者でも丁寧にフォローし

てもらえるため、リピー
ターも多い人気講座となり
ました。

（於曹洞宗大本山總持寺） 2024年11月23日

A large group of people, mostly women, are practicing yoga in a traditional Japanese hall with a high, vaulted wooden ceiling. They are all in a similar pose, bending forward with their hands reaching towards their feet. They are using various colored mats (purple, blue, black) on the floor. In the background, there is a raised platform with a small altar and a painting. The room has white walls and sliding doors (shoji).

10 Activity

（於 仏教伝道センタービル）

古代ペルシャで誕生し、



バラモン教（加藤氏）



ジャイナ教（河崎氏）



ゾロアスター教（青木氏）



イスラム教（保坂氏）

大乘仏教が登場した紀元前後に北西インドに伝わった「ゾロアスター教」の教義や歴史と、インドでの定着の歴史について

●第4回…イスラム教…12月2日…保坂俊司（中央大 学教授）
13世紀初頭のインド仏教の衰亡に関わったとされる「イスラム教」のインドにおける展開と仏教徒の改宗について



Activity

「願いの一字コンテスト」 2025開催

（於 浄土宗大本山増上寺）

新年の願いを漢字一字に込めて応募するコンテストを昨年に続き開催しました。

（公募期間…2024年10月15日～12月15日）

今回、応募された約 100字の漢字の中から、意味する「慈（じ・いつくす）」の一字が選定されました。

漢字の発表は令和7（2025）年1月6日、大本山増上寺大殿前広場にて書家の鈴木猛利氏により



「願いの一字」を揮毫する鈴木氏

揮毫。体全身を使い、一画一画、丁寧に願いを込めて書いたため、会場から拍手が起きました。

渡邊裕章氏（増上寺執事）は「仏心とは大慈悲これなりと説かれます。ぜひ隣の人に慈しみをもって接していただけますことを願っています」と挨拶されました。

揮毫された書は、当日夕刻まで増上寺境内に展示し、多くの方が書をバックに記念撮影されていました。「慈」の書は、2025年末まで仏教伝道センタービル1階ロビーに展示されます。



天王寺

12
Activity

「体感する仏教」上野・谷中編」開催

2025年2月8日



寛永寺根本中堂

令和7（2025）年2月8日に第5回目となる「体感する仏教」を開催しました。今回の舞台は谷中と上野。谷中を代表する名刹である天王寺と今年創建400年を迎えた上野の寛永寺で実施しました。

天王寺では、本堂にて、山口興順氏（天王寺住職）による天王寺と谷中の歴史についての説明や本堂の裏側にある貴重な仏像についての解説を伺い、谷中霊園の中にある五重塔跡にも案内していただきました。その後、谷中霊園の中を移動しながら、霊園内の渋沢栄一や徳川慶喜の墓地を拝観しました。

寛永寺では、根本中堂の中で、杉谷義恭氏（寛永寺執事）から寛永寺の歴史についてお話がありました。その後、普段は入ることができない徳川慶喜が隠居したといわれる部屋へ案内していただき、徳川家の霊廟を拝観しました。

寒さの厳しい日でしたが、貴重な体験に参加者の満足度が非常に高い特別講座となりました。

開催月	宗 派	講師名 (敬称略)
4月	天台宗	小野常寛 (天台宗普賢寺 住職)
5月	真言宗	小池陽人 (真言宗須磨寺派大本山須磨寺 寺務長)
6月	浄土宗	工藤量導 (大正大学 専任講師)
7月	浄土真宗	杉浦道雄 (真宗大谷派称名寺 住職)
8月	時宗	岩田尚登 (時宗満福寺 住職)
9月	臨済宗	野田晋明 (臨済宗妙心寺派林昌寺 副住職)
10月	曹洞宗	宇野全智 (曹洞宗総合研究センター 常任研究員)
11月	日蓮宗	互井観章 (日蓮宗経王寺 住職)



7月浄土真宗 (杉浦氏)



5月真言宗 (小池氏)



特別編 (杉浦氏：左、宇野氏：右)

Activity 13 仏教初心者講座 「一から学ぶ日本の仏教」

年間開催報告

仏教初心者講座 「一から学ぶ日本の仏教」
初の名古屋開催！

日本仏教の基礎を学ぶ機会を提供するため、各宗派の教義や成り立ち、宗祖

と中興の祖について学ぶ仏教初心者講座「一から学ぶ日本の仏教」を大阪

で開催しました。令和5(2023)年度は、会場を東京から大阪へ移し、オンラインも併用することで新たな受講者が増え、より多くの地域の方がたにご参

特別編

「すくいなのか、さとりなのか」開催

日本仏教が示す道は「すくい」なのか、「さとり」なのか。浄土真宗と曹洞宗の僧侶2名の対談で迫る――

「一から学ぶ日本の仏教」では、定例開催からさらに学びを深めるため特別編を開催しています。令和6(2024)年度では、

「すくい」と「さとり」を軸に、日本仏教の各宗派それぞれが何を目指し、何を示してきたのか、異なる宗派の講師2名の対談形式で開催しました。

すくいの主体と対象、煩惱についての捉え方などから現世における僧侶の役割までさまざまな話題に広がり、日本仏教の持つ多様な考え方が展開されました。

参加者からは「浄土系、禅宗それぞれの講師が自身の言葉で「すくい」と「さとり」を語ってくれたのが、新鮮でおもしろかったです」などのご感想をいただきました。

加いただくことができました。参加者からは、「教えだけでなく歴史的な背景や、どうしてそのような教えを説いているのかなど、本当

に勉強になりました」「歴史だけでなく、先生の体験から来る言葉が沢山あったので楽しく学べました」など、様々な感想をいただきました。

14 Activity

「こころを豊かにする精進料理教室2024」

食を通じて仏教を学ぶ

年間開催報告

令和6（2024）年度の「こころを豊かにする精進料理教室」は、特別回をあわせ、全4回開催。精進料理に精通する僧侶4名と和・洋・中のレストラン料理長とのコラボレーションで、精進料理の新たな可能性がひろがる機会となりました。

通常回の前半は、僧侶より「精進料理とは」のお話をいただいたあと、僧侶考案の精進料理レシピ3品について、料理長による調理の実演を見学しつつ、できたてを試食しながら学びました。

作精進料理コースをいただきました。

2024年度は通常回に加え、「しっかりと坐禅をしてみたい」「自分でつくる体験もしてみたい」という参加者からの声にお応えするかたちで特別回を開催。特別回の前半は、僧侶指導のもと、和室にて坐蒲を使用した坐禅を体験（希望者は椅子を使用）。静かに自分自身をみつめ直し、心を落ち着けた後は、僧侶から「精進料理とは」のお話をいただきました。料理長のデモンストラレーションを見学しながら実際に参加者も調理を体験。料理長や僧侶から手ほどきをうけ参加者同士で助け合いながら3品を完成させ、できたてを味わっていただきました。

20～80代まで幅広い年齢層にご参加いただき、精進料理を初めて体験する方も経験者も和気藹々とした雰囲気、楽しく学ぶ姿が印象的でした。各料理長による料理も大好評で、参加者は「プロの一手間でこんなに美味しくなるとは！」と驚きながらも、多くのことを学んだ様子でした。

令和7（2025）年度の開催についての最新情報は当協会公式サイト・SNSをご確認ください。



第1回（浅田氏）



第2回（飯沼氏）



第3回（緑川氏）



特別回（河口氏）



各回講師、場所、レシピ、コース ご紹介 (敬称略)



2024年9月28日 仏教伝道センタービル・
中国料理三田菩提樹

第1回

浅田 慈照 (高野山真言宗僧侶)
境田 剛樹 (中国料理三田菩提樹料理長)

◆レシピ モロヘイヤのクリーミースープ、椎茸と人参の和えもの、生姜で楽しむ野菜のから揚げ



◆コース 夏のなごりの彩り前菜3種盛り合わせ (椎茸と人参の和えもの、生姜で楽しむ野菜のから揚げ、押し豆腐・もちきび・三つ葉のあっさり塩マリネ) 龍眼とトマトの蕪まろごと蒸し、ジャスミンティー香る出汁茶漬け風 古代黒米の炒飯おにぎりおこげ添え、秋への移ろいデザート2種盛り合わせ (豆乳黒ごまプリン、もっちり蓮根コンポート)

2024年10月26日 曹洞宗宗務庁・
東京グランドホテル

第2回

飯沼 康祐 (天台宗福昌寺副住職)
松下 岳男 (東京グランドホテル総料理長)

◆レシピ フライドポテトのゴマ和え、ジンジャーアラビアータ、きのこのお粥



◆コース 前菜盛り合わせ (ジンジャーゼノバースド Dressingを使ったサラダ、人参のサラダレーズンアーモンドと共に) 茸とジャガイモ、サツマイモのソテー、ペンネとレジェネットマトを使ったトマトパスタ、ココナッツ風味のアンコと栗の春巻き風フリット

2024年11月30日 築地本願寺・
日本料理紫水

第3回

緑川 明世 (天台宗僧侶)
原野 友希 (日本料理紫水料理長)

◆レシピ ジャガ芋の胡麻衣揚げ、五色なます、こんにゃくの天ぷら



◆コース 一の膳 (じゃが芋の胡麻衣揚げ、鰯湯葉、五色なます)、二の膳 (鮪蕃茄寄せ湯葉刺身、車麩の角煮蕪含ませ隠元溶き辛子)、三の膳 (精進そばろ御飯、精進澄まし汁、がんもどき、紅葉麩、三つ葉、香の物三種盛り) ティラミス風モンブラン

2025年3月8日 仏教伝道センタービル・
中国料理三田菩提樹

特別回

河口 智賢 (曹洞宗耕雲院副住職)
境田 剛樹 (中国料理三田菩提樹料理長)

◆レシピ (実習・実食) 菜の花と押し豆腐の和えもの、生麩の牛肉風 彩り豆鼓炒め、精進焼売 (ごはん、精進スープ、精進デザート付)



令和6(2024)年度 BDKシンポジウム開催

Symposium

各講演概要

第35回

テーマ：「ブッダはどこにいるのか？」

～仏塔・浄土・仏塔から考える～

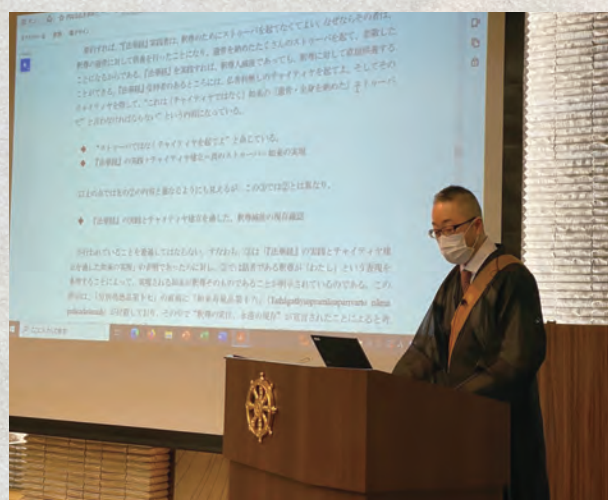
於 仏教伝道センタービル 2024年7月19日

仏塔信仰の専門家である井上陽氏（浄土真宗僧侶）と
仏性思想の専門家である鈴木隆泰氏（日蓮宗僧侶）のお
二人を講師に、古代インドで広く共有されていた仏塔思
想と日本仏教の各宗派で大切にされている浄土思想（外
在するブッダ）、そして仏性思想（内在するブッダ）に
ついて取り上げ、講師2名の講義と対談をおこないまし
た。

講義ではインドの仏教遺跡の豊富な写真の紹介（井上
氏）や発掘成果を踏まえた『法華経』における仏塔信仰
の新解釈の提示（鈴木氏）などがなされ、仏教研究の最
前線を体感出来る内容となりました。また対談では、フ
ロアからの質問も加わり、積極的な質疑応答がなされま
した。対面とオンライン合わせて約100名にご参加いた
だきました。



井上氏



鈴木氏

第36回

テーマ：「運がよくなる! 仏教の教え〈仕事編〉」

於 福岡県博多市・リファレンス駅東ビル 2024年8月22日

「仏教聖典を経営に活かす会」講師である千葉公慈氏（東北福祉大学学長）を講師に、「運がよくなる! 仏教の教え〈仕事編〉」と題し、講演をいただきました。仏教伝道協会にとって初めての九州でのイベント開催となり、63名（会場30名、オンライン33名）にご参加いただきました。

「仏教は悪しき因縁を転じていく教えであり、具体的には四無量心（慈悲喜捨）の修習、しかもそれは潜行密用、密かに人目にふれず、行いをし続けることが大切である」と、運が上向く方法を丁寧にわかりやすくお話しいただきました。



千葉氏



第37回

テーマ：「人生のみちしるべ」

於 仏教伝道センタービル 2024年10月5日

仏教伝道協会発行の『みちしるべ 忍辱』の執筆者のひとりである藤田一照氏（曹洞宗僧侶）を講師に、「人生のみちしるべ—仏教者を支えた言葉」と題し、講演をいただきました。会場・オンラインあわせて約100名が参加。藤田氏は多数の資料から「自身の真下を開く深淵を覗かせてくれる言葉」を紹介し、ユニークな視点で解説されました。

最後に「自己を探究していれば、血眼にならずとも、言葉の方から自分の前に現れてくる。しかし、日常生活から心の琴線を適度な張り具合を維持していなければ自分の心を震わせてくれる言葉に出会えない。周りを気にせず、自身の問題を自分なりのやり方で探究していったらいい」と講演を締めくくられました。



藤田氏



ちょっと、ひと休み

設立60周年記念出版物『禅僧は語る』ご紹介

さまざまな禅語をキーワードにした 禅僧による法話集

令和7(2025)年2月に、仏教伝道協会設立60周年を記念して、「みちしるべ」特別編『禅僧は語る』を刊行しました。

この書籍には、これまでの「みちしるべシリーズ」法話集にご執筆いただいた禅宗の方がたの法話を採録しています。また、近藤博道猥下（黄檗宗管長）、横田南嶺猥下（臨済宗円覚寺派管長）、川野泰周氏（臨済宗建長寺派）、吉村昇洋氏（曹洞宗）が、本書のために新たに法話をご執筆くださいました。

4名それぞれの視点で禅語をテーマにした法話を展開しており、禅に関する理解を深めるには最適の一冊です。曹洞宗、臨済宗、黄檗宗の方がたが説く禅の世界を味わっていただけましたら幸いです。

◎こちらの書籍は当協会公式サイト内オンラインショップからご購入いただけます



海外協力機関のご紹介

北米地区

米国仏教伝道協会
ハワイ仏教伝道協会
カナダ仏教伝道協会

中米地区

メキシコ仏教伝道協会
メキシコ恵光寺

南米地区

南米仏教伝道協会

欧州地区

ヨーロッパ仏教伝道協会
ドイツ恵光日本文化センター
英国仏教伝道協会
ポーランド仏教伝道協会

アジア地区

アジア仏教伝道協会
台湾仏教伝道協会
タイ仏教伝道協会

日本国外には、現在10カ国11カ所にそれぞれ独立した“仏教伝道協会（通称：BDK）”があり、日本の仏教伝道協会と相互に連携しながら、特に「仏教聖典」の頒布活動を通じて仏教精神、仏教文化を伝えています。

海外協力機関のご紹介



お問い合わせ一覧

●各国での「仏教聖典」頒布やその他活動の詳細に関するお問い合わせは、お近くの仏教伝道協会までお願いします。

北米地区

米国仏教伝道協会
BDK America

1675 School Street,
Moraga, CA 94556 U.S.A.
Tel: +1(925)388-0067 Fax: +1(925)388-0331
<http://www.bdkamerica.org> (対応言語: 日本語・英語)

ハワイ仏教伝道協会
BDK Hawaii

1750 Kalakaua Avenue, Suite 403
Honolulu, Hawaii 96826, U.S.A.
Tel: +1(808)942-1511
E-mail: bdkshi@hotmail.com
<http://www.bdkhawaii.com> (対応言語: 英語)

カナダ仏教伝道協会
BDK Canada

c/o Mitutoyo Canada Inc.
2121 Meadowvale Blvd.
Mississauga, ON, CANADA L5N 5N1
Tel: +1(905)821-6202 Fax: +1(905)821-4968
E-mail: honjo@bdkcanada.com
<http://www.bdkcanada.com> (対応言語: 日本語・英語)

中南米地区

メキシコ仏教伝道協会／メキシコ恵光寺
BDK Mexico

Protonagación Eugenia No. 17, Colonia Nápoles,
Alcaldía Benito Juárez, CDMX, C.P.03810, MEXICO
Tel: 52(55)3130-4610
Email: contacto@ekoccj.com
<http://ekoccj.com> (対応言語: 日本語・スペイン語・英語)

南米地区

南米仏教伝道協会
BDK South America

a/c Mitutoyo Sul Americana Ltda.
Avenida Mimes, 25 - Jardim Ermita I
CEP: 13212-216 - Jundiá - SP, Brasil
Tel: +55(11)4746-5813
E-mail: bdk@mitutoyo.com.br (対応言語: 日本語・ポルトガル語・英語)

欧州地区

ヨーロッパ仏教伝道協会／ドイツ恵光日本文化センター
BDK Europe/EKO-Haus der Japanischen Kultur e.V.

Brüggener Weg 6,
40547 Düsseldorf, GERMANY
Tel: +49(211)577918-0 Fax: +49(211)577918-219
E-mail: bdk@eko-haus.de
<http://www.eko-haus.de> (対応言語: 日本語・ドイツ語・英語)

英国仏教伝道協会
BDK U.K.

c/o Mitutoyo(UK)Ltd. Joule Road, West Point
Business Park, Andover, Hampshire SP10 3UX U.K.
Tel: +44 1264-353123 Fax: +44 1264-354883
E-mail: BDK.UK@mitutoyo.co.uk (対応言語: 英語)

ポーランド仏教伝道協会
BDK Poland

c/o Mitutoyo Polska Sp.z o.o.
ul. Graniczna 8A 54-610 Wrocław, POLAND
Tel: +48(71)354 83 50 Fax: +48(71)354 83 55
(対応言語: ポーランド語・英語)

日本以外のアジア地区

アジア仏教伝道協会
BDK Asia

c/o Mitutoyo Asia Pacific Pte. Ltd.
24 Kallang Avenue, Mitutoyo Building,
Singapore, 339415, SINGAPORE
Tel: +65 6294-2211 Fax: +65 6299-6666
E-mail: bdk@mitutoyo.com.sg
<https://bdkasia.org> (対応言語: 日本語・英語・中国語)

台湾仏教伝道協会
BDK Taiwan

4F, No.71, Zhouzi St., Neihu Dist.,
Taipei City 114, TAIWAN
Tel: +886(2)5573-5913 Fax: +886(2)8752-3267
E-mail: bdktaiwan@yahoo.com
<https://www.bdk.tw> (対応言語: 日本語・英語・中国語)

タイ仏教伝道協会
BDK Thailand

2327, Onnut Road, Kwaeng Onnut,
Khet Suanluang, Bangkok, 10250, Thailand
Tel: +66-2080-3500 (対応言語: 日本語・英語・タイ語)



イエール大学にも新たに沼田仏教講座を設立

米国仏教伝道協会 BDKアメリカ

(アメリカ・カリフォルニア州)



令和6(2024)年の 活動報告

2024年は、BDKアメリカにとって非常に活動的な一年となりました。「仏教聖典」や英訳大蔵經の翻訳と出版を継続し、書籍の頒布、ワシントンD.C.の恵光寺への支援、そして主要大学における沼田仏教講座の運営を通じて、アメリカでの仏教理解の促進に努めました。

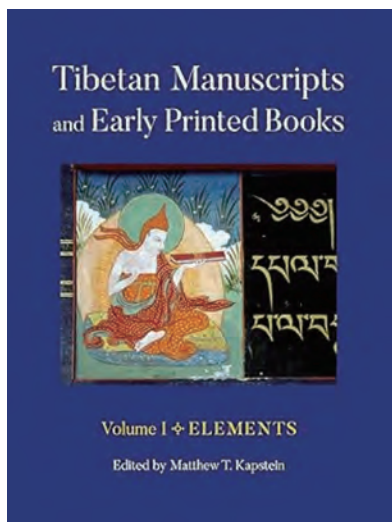
この一年では、新たに『十住毘婆沙論(1)』および『摩訶止観(1)』の2冊を刊行しました。英訳大蔵經はAmazon.comを通じて2,200部以上が販売され、公式サイトからのPDF版の月平均ダウンロード数は1,500件にのびりました。仏教の經典は読解が難しいにもかかわらず、一般の方がたの関心は非常に高いことがうかがえます。

また、「仏教聖典」は7,000部以上を配布し、アメリカ軍からの注文も依然として多い状況です。その他の出版物も13,000部以上を出荷し、特に「仏教聖典」から日常生活の中に取り入れやすいテーマのお話を集めた「Messages from the Buddha (ブッダのおしえ)」

(3,745部)および「仏教聖典」から抜粋し毎日1話のスタイルで基本の教えを学べるよう構成した「A Teaching A Day (日々の教え)」(5,653部)が人気を集めました。

ワシントンD.C.にある恵光寺は、沼田恵範氏によって創設された寺院で、アメリカ仏教会に所属しており、BDKアメリカからの支援を受けています。2024年には大規模な修繕を終え、地域住民にも開かれた商業用キッチンを備えました。毎年7月に開催される「盆踊りまつり」は地元で非常に人気があり、今回も境内は多くの来場者で賑わいました。

BDKアメリカでは、アメリカのハーバード大学、プリンストン大学、カリフォルニア大学バークレー校、カナダのマクマスター大学、トロント大学などの大学院仏教学プログラムである「沼田仏教講座」を支援しています。プログラムの各校担当教員は、アメリカ宗教学会の年次大会(2024年はカリフォルニア州サンディエゴにて開催)にて定期的に会合を行っています。本年5月には、長年の準備、支援を経てイエール大学にも新たな沼田仏教講座が設立されました。これらのプログラムは、北米における仏教研究、大学院教育への最大規模の資金援助



カプスタイン氏著書

となっています。

また、年に一度授与される「沼田智秀仏教書籍優秀賞」は、現在では仏教学分野における最も権威ある賞のひとつとされています。2024年度は、カリフォルニア大学バークレー校の沼田仏教学センターが任命した独立選考委員会により、著書『Tibetan Manuscripts and Early Printed Books』（コーネル大学出版）を著したマシュー・カプスタイン名誉教授（フランス高等実践学院、パリ科学・文化研究大学）が受賞者に選ばれました。11月1日、カリフォルニア州バークレーにある浄土真宗センターにて開催された授賞式では、BDKアメリカのブライアン・ナガタ氏より表彰が行われました。続いて行われたシンポジウムでは、カプスタイン氏による基調講演「本を支えた仏教徒たち（The Buddhists Behind the Book）」が行われ、ジャネット・ギャツォ氏



沼田智秀仏教賞書籍優秀賞受賞者カプスタイン氏（中央）

（ハーバード大学）、トレント・ウォーカー氏（ミシガン大学）およびサンセライマ・ウジード氏（ミシガン大学）も登壇しました。

2025年に向けて、BDKアメリカでは新たに「日本仏教現地研修プログラム」の企画運営を進めています。このプログラムは、アメリカおよびカナダの大学院生を対象に、日本において仏教寺院の訪問、僧侶や研究者による講義の聴講、重要仏教遺跡での体験などを通して、日本仏教への理解を深めることを目的としています。次世代の日本仏教学者を育成する新たな試みとして期待されています。

BDKアメリカは、今後も伝統的な取り組みと新たな挑戦を通じて、仏教理解の深化に貢献してまいります。



新事務所開所式にて（BDKハワイ・タナベ氏：右）



新事務所開所式にて（木村会長：右）

令和6（2024）年の活動報告

2024年は、BDKハワイにとって重要な節目の年となり、長年活動の支えになってきたビルを売却し、新事務所に移転しました。この度売却したビルは、平成3（1991）年に沼田恵範氏と仏教伝道協会が資金提供を行い、18戸が入居可能なアパートとして建設。長い間BDKハワイの活動財源となってきましたが、近年、老朽化が進み、大規模な修繕が必要となったため、売却を決断しました。2024

ハワイ仏教伝道協会 BDKハワイ (アメリカ・ハワイ州)



年11月に売却が完了し、ワイキキの端にあるセンチュリーセンター・ビルに新事務所を移転し、2025年2月には、開所式を実施しました。2024年3月1日に旧事務所最後の理事会を開催しました。

コロナ禍の影響から徐々に回復している中、2023年にホテルへ配布した「仏教聖典」は300冊未満でしたが、2024年は1,000冊以上配布することができました。寺院、ギフトショップ、個人向けの「仏教聖典」の頒布総数は3,188冊となっています。

他の出版物は引き続き人気で、特に小冊子「ブツダのおしえ」が好評でした。『さとの知恵を読む』と『ブツダがせんせい』も多くの関心を集め、これらの書籍は3,500

Israel Through Millennial Eyes

**February 25, 2024
2-4PM**

**Mystical Rose Oratory
Chaminade University of Honolulu
3140 Waiialae Ave., Honolulu
*FREE EVENT**

Easton Delacruz Kyle-Jacob La'akea Gamiao

Responding to an invitation by The Interfaith Alliance of Hawai'i, two Chaminade millennials joined in an ecumenical pilgrimage to the Holy Land. Join them as they share their experiences and impressions.

**Moderated by:
Michael Weaver
Professor, Historical & Political Studies
Chaminade University**

**Sponsored by:
The BDK-Yoshiaki Interfaith Program at Chaminade University of Honolulu
For more information: Dr. Malia D. Wong, O.P. / mwong2@chaminade.edu**

「BDKフジタニ異宗教間プログラム」イベントチラシ

冊以上頒布され、「仏教聖典」を上回る結果となりました。

また、2024年9月には、ハワイ・ブック&ミュージック・フェスティバルにおいて、クリスティー

ナ・ムーニン氏が自身の著書『Three Years on the Great Mountain: A Memoir of Zen and Fearlessness (三年の大山・禅と無畏の回想録)』について講演しました。この

書籍は、ムーニン氏がホノルルの臨済宗寺院・長善寺での修行を綴った自伝で、修行を通して得た内面的な思いと感情を伝えています。

「BDKフジタニ異宗教間プログラム」では、2名の大学生がイスラエルへの世界的キリスト教巡礼の体験談を共有しました。ホノルルにあるカトリック系のシャミネード大学が運営するこのプログラムは、故ヨシアキ・フジタニ氏（本派本願寺ハワイ別院住職やBDKハワイの会長を歴任）の遺志を引き継ぎ、仏教の

普及だけでなく、宗教間の理解を深める活動を行っています。BDKハワイは、仏教を広めることだけでなく、私たちは皆繋がっているという認識のもと、様々な宗教の伝統に対する理解を深めることにも努めています。

旧事務所ビルの売却と新しい事務所への移転により、BDKハワイは新たな段階を迎えました。今後も仏教に対する理解を深め、ハワイのひとびとの関係をより良く築くために活動を続けていきます。

メキシコ仏教伝道協会 BDKメキシコ (メキシコ)

令和6(2024)年の 活動報告

2024年は、「EKO出版部」を公式に設立し、オリジナル書籍を発行することが叶い、BDKメキシコにとって記念すべき年となりました。

挑戦したのは、『般若心経』のスペイン語版です。言語で説明することが難しい「空（くう）」。それならば、「空」を体感できる本づくりは可能だろうか、という遊び心から始まった、大胆な試みです。書道家、舞踏家、写真家、詩人、と様々

な挑戦したのは、『般若心経』のスペイン語版です。言語で説明することが難しい「空（くう）」。それならば、「空」を体感できる本づくりは可能だろうか、という遊び心から始まった、大胆な試みです。書道家、舞踏家、写真家、詩人、と様々

まなジャンルアーティストたちの協力を得て、完成しました。

体感型の本であるため、出版発表会もパフォーマンス形式で行いました。元大統領公邸である国立文化センターを会場に、90歳の書道家、飯田利明氏による書道パフォーマンスは圧巻でした。「仏説摩訶般若波羅蜜多心経」としたためられた巨大な和紙を、観衆の皆さんと運んで「つながり合い、支え合って生きていること」を実感したり、耳なし芳一の如く全身に経を綴られた舞踏家の踊りに五感を震わせたり、来場者は『般若心経』の世界を満喫してくださいました。

また、メキシコ文化省との協働企画として、国営書店や、政府主催のイベントにて、紙芝居の上演を多数



飯田利明氏による書道パフォーマンス



BDKサウス・アメリカ新担当者
左から加藤大輔理事長、アナ・ゴンサルベス氏、山下茂理事

南米仏教伝道協会 BDKサウス・アメリカ (ブラジル)

令和6（2024）年の 活動報告

2020年からのコロナ禍の影響に加え、事務所の所在が、それまでのスザノ市からサンパウロ中心地か

ら約60km北上したジュンジャイ市に移転。この間、人員の入れ替わり等で長く活動が停滞していましたが、2024年より新担当者3名で「仏教聖典」の普及を中心に活動を再開しました。

行いました。手塚プロダクションと仏教伝道協会のコラボレーション紙芝居『ブッダくおしやかさまの一生』をはじめ、慈悲の心を育む作品を通して、平和と共生の精神を伝えています。紙芝居は、分断が進む現代に求められる「共感力」を培う、素晴らしいツールとなっています。

また、大学や文化関係のイベントで、約5,000冊の「仏教聖典」を頒布させていただきました。2025年には、2つの国際ブックフェアへの出展を予定しています。これからも、魅力的な本を通して、仏の心を伝え、共存・共生の精神の普及に精進してまいります。



祖先祭（4月導師：マルコス・シウバ師）

院南米本願寺より導師をお迎えして法話をいただきました。大半の従業員は、仏教の大切さ・祖先を敬う心を育むことを目的として始まった「祖先祭」への参加は初めてでしたが、家族・祖先を大切に思う気持ち

は、ブラジルも同じで、多くの参加者が仏教の心の持ち方に共感と安らぎを得たようです。小規模ではありますが、引き続き皆さまからのご指導をいただきながら活動してまいります。



協天廟

台湾仏教伝道協会 BDK台湾 （台湾）



令和6（2024）年の 活動報告

2024年12月2日台北市内の圓山大飯店にて台湾仏教伝道協会の総会を開催し、社団法人管轄官庁の内政部からの連絡事項の通達と、直近5年間の「仏教聖典」頒布状況の実績報告を行いました。

理事長職は、任期を1期2年として上限が2期連続4年まで、と定められています。台湾は、仏教が広く親しまれている国のため、各地に寺院

れているため改選の必要があり、長年にわたり理事長を務めていただいた張炳煌氏（書家・台北市仏学研究會理事長）に代わって、星隆貿易 詹俊德總經理が選出されました。張氏には、理事長退任後も台湾仏教伝道協会の活動にご支援をいただく予定です。

台湾仏教伝道協会は「多くの人びとに、仏教伝道協会を創設した沼田惠範氏の志と発願の経緯を理解していただきたい」という思いで、惠範氏が自身の人生について語っている講演録「一筋の道」の頒布活動を開始しました。台湾は、仏教が広く親



「仏教聖典」を寄贈するBDK台湾・傅氏（右）



協天廟内に設置されている中国語版「一筋の道」

や廟などが多数存在していますが、寺院を参拝する方がたに、より気軽に持ち帰って読んでいただけるよう、初めて小冊子「一筋の道」を中国語、英語、日本語版の計200冊置かせていただくことになりました。今回の頒布先は、宜蘭県内にあ

る関羽（中国後漢末期・蜀の武将）を祭る「協天廟」という寺院で、「仏教聖典」も併せて本棚で展示していただきました。今後も、たくさんのお寺があるという特性を生かして、さらに小冊子の頒布も充実させていきたいと考えています。

アジア仏教伝道協会 BDKアジア (シンガポール)



令和6（2024）年の 活動報告

2024年4月、仏教伝道協会およびBDKアジアの代表団がタイを訪れ、仏教の教えを広め、タイ国内の関係各位とのパートナーシップをさらに強化するための親善訪問を行いました。

代表団は、タイ・ホテル協会を訪

れ、同協会理事であるサワニー氏より歓迎を受け、BDKアジアとタイ国内のホスピタリティ業界との協力関係を強化する貴重な機会となりました。タイ・ホテル協会の会員であるミットヨ・タイランドは、ホテルに「仏教聖典」を配布し、宿泊客やスタッフに仏教の智慧を伝える取り組みを支援しています。

代表団はマハーマクト仏教大学も訪問し、副学長や関係者らと面会。仏教教育における今後の協力体制について積極的な議論がなされました。2019年から、ミットヨ・タイラン



BDKアジア・松生氏（左）
マハーマクト仏教大学にて



BDKアジア・松生氏より木村会長へ記念品を贈呈



仏教伝道協会代表団が新設されたBDKタイランドを訪問



庭園祭



ドは同大学の卒業式で「仏教聖典」を配布しており、卒業生の精神的な学びの一助となっています。

2024年12月、アユタヤで開催された「仏教教育機関中部地域職務遂行能力向上セミナー」において、

タイ語版「仏教聖典」を僧侶496名に配布しました。この取り組みは、仏教教育を支援し、僧侶が自身の精神的かつ実務的な道具のひとつとして「仏教聖典」を活用していただくことを目的としています。

ヨーロッパ仏教伝道協会 BDKヨーロッパ (ドイツ)

令和6(2024)年の

活動報告

新企画として子どもたちを対象とした「お寺らのサマースクール」を8月25日に開催し、10名が参加しました。境内の日本家屋では日本文化について、本堂では仏教のお話を聞き、鐘撞き体験をしました。お寺には普段なじみのない子どもたちも多く、質疑応答も楽しみながら多くの時間を過ごすことができました。

2018年以来となる「庭園祭」を9月14日に開催し、約900名の



お寺のサマースクール

来場がありました。当日は天気にも恵まれ、庭園にて太鼓、幼稚園児による歌とダンス、箏、地唄三味線、日本舞踊、なぎなたの演舞が行われました。また、恵光センター館内では生け花や書道に関する展示会も開催しました。

11月23日には、ハイブリッド形式での報恩講法要を勤修しました。ドイツ、イギリス、スイス、日本の僧侶が法要に出動し、「正信念仏偈」のお勤め、「御伝鈔」拝読、恵光センターのヤン・マーク・ノッテルマン・ファイル氏から英語での法話をいただきました。オンラインでは日本、アメリカ、インド、パナマなど世界中からお参りをいただきました。



報恩講

笑顔（えがお）

私たちは自分の普段の顔が案外わかっていないのではないのでしょうか。

毎日鏡を見ない日がないのだから、

自分の顔ぐらいわかっていると思う人が多いようですが、
鏡に映る顔は、どちらかというとすました自分の一番いい顔です。

目の小さい人は目を大きく開き、

口の大きい人は口を小さくして無意識のうちに一番いい顔を作っています。

写真を撮るときも、チーズとよそ行きの顔をしています。

私たちは、鏡に向かうような顔、写真を撮（と）るときのような顔で毎日生きれば、
他人と争うこともなく、本当に気持ちのいい生活が出来ることでしょう。

それが、鏡やカメラの前から離れたとたんに顔が変わり、

しかめっ面になったり、なんとも嫌な顔になってしまいがちです。

笑顔が周りの人の気持ちをごれぐらい和（やわ）らげ、

自らをごれほど美しく見せることでしょう。

「笑う門（かど）には福来（きた）る」です。

（仏教伝道協会 第二代会長 沼田智秀『ささえあって―百八つのおもい―』より）